

DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（％）－悪い（少ない）等の構成比（％）を計算した結果です。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

特に決まりはありませんが、このレポートは次の基準で記載しました。（マイナスは△表示）

○良い：15P 以上  ○やや良い：6P～14P 
 ○変わらない（普通）：△5P～5P 
 ○やや悪い：△6P～△14P  ○悪い：△15P 以下 

業種別 調査結果と事業者の声

*DI 値調査結果は裏面に記載

☆以下（ ）内は前回調査比 DI 値の増減

(1) 製造業 16 <良い>

景況感・売上額 DI 値は共に 16P（+16P、+29P）と大幅に上昇、しかし収益・雇用人員 DI 値は厳しい状況が続いています。次期は収益を除く全項目で改善が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・10月～12月売上げは前年比5%増。依然取引先からの新規受注が旺盛で、工場はフル稼働の状態。工場の生産能力が受注に追いつかないことも散見されることから、人員配置等の見直しにより生産力をアップさせることで1～3月は前年比3%以上の増加を見込む。
- ・10月～12月売上げは前年比5%増。1月以降も受注は確保し前年並みを見込んでいる。
- ・10月～12月売上げは前年比10%増。受注状況は安定している。
- ・当社の製造技術の高さは元請会社からの信頼も厚く、今後も長い間安定した受注が期待できる。
- ・10月～12月売上げは前年比5%増。材料仕入値の高騰に対し、納入先への単価を据え置いている事から、利益は減少している。
- ・受注量や内容は変わらないが、受注単価の低下と検査項目の増加で収益率が落ちている。

(2) 建設業 26 <良い>

景況感 DI 値は 26P（+16P）、売上額 DI 値 23P（+23P）、収益 DI 値 26P（+32P）と大幅に増えました。唯一、雇用人員 DI 値が△40P（△8P）と引き続き、非常に厳しい状況です。次期は緩やかながら順調な推移が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・売上げは前年比30%増。関東を中心とする高層マンション新築工事並びに公共施設の新築工事受注により増加。
- ・横浜・川崎・東京を中心に受注を確保し業況は堅調に推移。工事単価が下がり利益が圧縮される案件もある中で、積算管理を徹底し利益確保にも取り組んでいる。
- ・戸建新築の受注が減少。リフォーム等で数をこなし売上げを維持している状態。組合等横の繋がりを活かし、大きな受注も取り込めるよう営業活動を積極的に展開していきたい。
- ・業界全体として人手不足の状況は当面解消される見込みはなく、今後も人員の調整に注視しながら適正受注確保、利益増加に努める方針。
- ・安定した施工をする為に現場監督を雇用したがうまく機能しておらず、人材の育成が課題。

(3) 卸・小売業

△6 <やや悪い>



景況感 DI 値は△6P (+14P) と大きく改善、雇用人員を除くその他の DI 値も前期より大きく改善しました。次期は全体的に横ばい、あるいはやや悪化の傾向が見込まれています。

☆事業者の主な声☆

- ・売上げは前年比3～4%程度の増加。要因としては人員の増加による販路拡大と、他メーカーの元売りが減産となった分、当社のメーカーがカバーした為に売上増加が図れた。
- ・大手スーパーとの価格競合で商店街に位置する店舗の売上げが苦戦。今後も競合店との価格競争は避けられず、1～3月は前年比3%を見込む。また人手不足であり、人材確保が課題。
- ・固定客が売上げの多くを占めており、新規顧客の獲得が当社の課題となっている。
- ・若い人の車離れがあり、顧客の高齢者は運転をしなくなるので、自動車修理等の売上げが減少している。今後は若年層の掘り起こしに努めたい。

(4) 不動産業

8 <やや良い>



景況感 DI 値は8P (△3P) で、落ちついています。売上額 DI 値は0P (△11P)、収益 DI 値10P (△6P) とやや落ち込みましたが、雇用人員 DI 値、資金繰り DI 値は改善しました。次期は資金繰り DI 値以外、全体的に悪化の見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・プロジェクト物件が安定した推移を見せており、1～3月は前年並みを見込む。
- ・不動産市況は動いており、仲介並びに管理は安定した売上を確保している。
- ・10～12月売上げは前年比5%増。人員の拡充を概ね済ませ、自社プロジェクトの販売状況が良好に推移したことが要因。
- ・在庫が少なく売上げは昨年より減少している。横須賀市内の最終消費者価格は下落し続けており、当面建売販売は慎重に行っていく。立地条件等により契約に時間を要するケースもあり、大幅な販売価格引下げにて対応せざるを得ない物件もある。

(5) サービス業

△5 <変わらない>



景況感 DI 値は△5P (△5P) と悪化しましたが、その他の DI 値は緩やかに伸びています。前回厳しかった資金繰り DI 値は△14P (+17P) と大幅に回復しました。次期は全体的に横ばい、あるいはやや悪化が見込まれます。

☆事業者の主な声☆

- ・客の殆どが固定客で高齢者も多く、今後は顧客の減少が懸念され、新規顧客獲得が直近の課題。
- ・仕入値は世界情勢に左右されるため、今後の世界情勢に注意が必要であり不安定要素が多い。
- ・運転手の高齢化等の要因もあり稼働率アップが課題となっている。ハイブリッド車の割合が年々増加し、商社からの仕入価格が前年の同時期に比較して大きく上昇したため満タン給油する顧客が少なくなり、販売量の減少に繋がった。
- ・観光に訪れる個人客・団体客への昼食誘致が功を奏している。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成28年7～9月の景況感（調査時点 平成28年9月1日）
 今・・・今期 平成28年10～12月の景況感（調査時点 平成28年12月1日）
 次・・・次期 平成29年1～3月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	211	38	52	60	19	42
今期	172	38	35	45	12	42
次期	172	38	34	46	12	42

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
	良い(A)	24	27	26	29	34	42	35	43	38	18	18	15	11	25	17	19	19	14
	変わらず	50	52	52	42	48	34	40	40	53	44	58	61	89	58	50	62	57	60
	悪い(B)	26	21	22	29	18	24	25	17	9	38	24	24	0	17	33	19	24	26
	DI値(A)-(B)	△2	6	4	0	16	18	10	26	29	△20	△6	△9	11	8	△16	0	△5	△12
	今-前、次-今	8	△2		16	2		16	3		14	△3		△3	△24		△5	△7	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
	好転(A)	25	34	27	24	42	42	27	46	35	30	30	24	11	20	8	21	24	14
	変わらず	44	41	47	39	32	34	46	31	50	29	46	48	89	60	67	50	47	53
	悪化(B)	31	25	26	37	26	24	27	23	15	41	24	28	0	20	25	29	29	33
	DI値(A)-(B)	△6	9	1	△13	16	18	0	23	20	△11	6	△4	11	0	△17	△8	△5	△19
	今-前、次-今	15	△8		29	2		23	△3		17	△10		△11	△17		3	△14	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
	増加(A)	19	26	22	24	26	21	21	43	44	20	20	15	16	30	17	12	19	12
	変わらず	50	48	49	39	42	45	52	40	41	41	54	52	84	50	66	57	52	52
	減少(B)	31	26	29	37	32	34	27	17	15	39	26	33	0	20	17	31	29	36
	DI値(A)-(B)	△12	0	△7	△13	△6	△13	△6	26	29	△19	△6	△18	16	10	0	△19	△10	△24
	今-前、次-今	12	△7		7	△7		32	3		13	△12		△6	△10		9	△14	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
	多い(A)	5	2	3	5	0	3	8	3	3	5	2	2	0	0	0	2	5	5
	適正	64	62	63	69	61	63	52	54	56	67	65	68	89	100	92	58	57	57
	少ない(B)	31	36	34	26	39	34	40	43	41	28	33	30	11	0	8	40	38	38
	DI値(A)-(B)	△26	△34	△31	△21	△39	△31	△32	△40	△38	△23	△31	△28	△11	0	△8	△38	△33	△33
	今-前、次-今	△8	3		△18	8		△8	2		△8	3		11	△8		5	0	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
	楽である(A)	12	14	12	13	21	18	17	14	12	13	15	11	11	10	17	2	7	5
	さほど苦しくない	62	70	73	61	55	64	60	77	82	57	72	74	78	90	83	65	72	71
	苦しい(B)	26	16	15	26	24	18	23	9	6	30	13	15	11	0	0	33	21	24
	DI値(A)-(B)	△14	△2	△3	△13	△3	0	△6	5	6	△17	2	△4	0	10	17	△31	△14	△19
	今-前、次-今	12	△1		10	3		11	1		19	△6		10	7		17	△5	

〈参考〉昨年同期と現在の売上比較(回答 99社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「売上額」が増加(A)	29社	29.3%	29.6%
昨年と比べ「売上額」が変わらない、横ばい	28社	28.3%	29.6%
昨年と比べ「売上額」が減少(B)	42社	42.4%	40.8%
DI値(A)-(B)		△13.1 P	△11.2 P

